

花きの県別生産出荷概況(4月見通し)

品目	県名	作付面積 ^{ha} (前年比)	主な品種	4月出荷見込み 千本		主産地	4月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
小ぎく									
トルコギキョウ	群馬県		エスプリライトピンク フロポーズ ポヤージュシリーズ他	80 (97%)	70 (97%)	邑楽館林 甘楽富岡	30	30	40
	茨城県	10 (100%)	レイナホワイト, ダイヤモンドビーチ, ロジーナラベンダー, ポヤージュグリーン 他	100	35	石岡市, つくば市, つくばみらい市, 水戸市 他	15	35	50
	大分県	6 (100%)	レイナホワイト 海ほのか 他品種	150 (100%)	80 (100%)	玖珠九重 佐伯 豊後高田 他県内産地	30	30	40
バラ	茨城県	11 (98%)	アバランチエ, ローテローゼ, サムライ, パレオ, アイリーン 他	500	400	石岡市 土浦市 かすみがうら市 つくば市 水戸市 茨城町 他	40	40	20
	群馬県		アヴァランジェ サムライ 他			前橋市 甘楽富岡	35	35	30
	山梨県	2.5 (66%)	ローテローゼ サムライ 等	150 (71%)	150 (71%)	笛吹市(御坂町)	30	35	35
	大分県	8 (100%)	Mシリーズ Jシリーズ その他各品種	500 (90%)	125 (90%)	玖珠九重 山香 九重町飯田	30	30	40
アルストロメリア	山形県	9.6 (95%)	アヴァランジェ エベレスト ピンクサブライズ プリマドンナ レベッカ レモン 他	1,050 (95%)	520 (95%)	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら	30	35	35
	茨城県	-	レベッカ, ドリームランド, シモナ, デボラ, レモン, オレンジクイーン 他	200	140	土浦市	40	40	20
	長野県	-	レベッカ アヴァランジェ ハニーソフィア パスカラ	1,900 (102%)	800 (100%)	上伊那 信州諏訪 松本ハイランド 佐久浅間	40	30	30

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小ぎく		<p>現状 3月上旬より東北の3/11絆需要があり安定した相場で推移。お彼岸需要に関しても3/14(金)の入荷ピークに向け流れ、そのままに安定した相場で推移する。絆需要、お彼岸需要中心の動きとなった。</p> <p>見通し</p>
	大田花き	<p>上旬から中旬にかけて入荷が増加していく見通しで、色バランスとしては黄色がやや多めとなる見込み。4月に関しては、大きな需要はないが数量も減少しているため、安定した販売となる見通し。</p> <p>FAJ 需要期を過ぎ入荷量落ち着く見込み。通常需要に戻る。</p>
	東日本板橋花き 世田谷花き 第一花き	<p>特に大きな需要なく動き鈍い。入荷量は下旬多い。</p> <p>入荷はまちまちだが、単価はでにくい。入荷量次第。</p> <p>業務需要主体の流れ、特に大きな需要も無い時期で入荷バランスによるところが大きい。</p>
トルコぎきょう	<ul style="list-style-type: none"> ・東部地域においては大きな倒壊被害などは見られないため、概ね順調な出荷が見込まれる。 ・県西部地域においては倒壊被害が見られ、出荷量は減少するが、生産者の再建意欲は高いため、来年以降の出荷量は回復する見込み。 ・品質面は病害虫の発生もなく良好。 	<p>現状 国産に関して各産地天候の影響もあるが、寒さ厳しく入荷がなかなか増えない状況であった。中旬以降、台湾産も増えてきたが、彼岸需要、プライダル、送別需要とあつたために、比較的安定した販売が続いていた。</p> <p>見通し</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷のピークは中旬以降の見込み。 ・品質はほぼ平年並みの見込み。 	<p>大田花き 4月の春だしの品物が九州、静岡と徐々に増えてくる見込み。台湾産は現地の天候次第ではあるが、継続して出荷は続く見込み。</p> <p>FAJ 熊本中心の入荷。彼岸需要期を終え、入荷量やや落ち着く見込み。</p>
	<p>気温上がってきたことから生育はやや前進気味。中旬に出荷開始予定の一部産地で立ち枯れがみられることから、中旬はやや少なめ、下旬以降に纏まってくる見込み。</p>	<p>大田花き 4月の春だしの品物が九州、静岡と徐々に増えてくる見込み。台湾産は現地の天候次第ではあるが、継続して出荷は続く見込み。</p> <p>FAJ 熊本中心の入荷。彼岸需要期を終え、入荷量やや落ち着く見込み。</p>
		<p>東日本板橋花き 3月下旬の天候によるが、4月中は数量潤沢な予想。業務中心の動き。</p> <p>世田谷花き 台湾産は初旬まで。婚礼需要多く、品薄傾向になりそう。</p> <p>第一花き -</p>
バラ	<ul style="list-style-type: none"> ・品質はほぼ平年並みの見込み。 	<p>現状 国内産地は重油の高騰のため、焚ききれておらず、3月の中旬に微増するが、例年より増加幅が少なく、入荷量は昨年に対し少ない見込み。輸入品は中旬のプライダル、送別需要に合わせ、ケニア産、インド産に入荷が増加する見込み。中国産アヴァランチェなど安価な商材中心に増加。</p> <p>見通し</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・2月の大雪被害により、山手を中心にハウスの倒壊被害がみられ、出荷量の減少が見込まれる。 ・倒壊を免れたハウスでは補修作業が行われており、今後は気温上昇に伴い現在よりも出荷量は増加する見込み。 ・品質面では目立った病害虫の発生もなく良好。 	<p>大田花き 国内産地は3月の需要期に合わなかった商品が例年に比べ多い見込み。高冷地中心に入荷は増加傾向。輸入品は大きな需要がないため、各商社とも入荷量は減少する。相場次第で大きく変動する反面、高単価で推移できれば、入荷量は減らずに推移する。</p> <p>FAJ 宴会需要一段落に加え、日照量・気温の上昇に伴い入荷量増量見込み。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・大雪により施設倒壊等の被害が発生した。被害調査中につき、面積・出荷見込み数量については推定値。 <p>低温による数量減少により九重飯田は関東向け出荷が止まっていたが、3月下旬より再開。4月より徐々に増加となるが前年と比べ減少となる見込み。</p>	<p>東日本板橋花き 国内産は冬場の暖房を渋っていた生産者の品物が気温の上昇とともに増える。</p> <p>世田谷花き 昨年並みの入荷量の見込み。上旬はそこそこ動くが、中旬以降、入荷量が増え、厳しい動きになる見込み。</p> <p>第一花き 入荷状況によるが、プライダル需要中心の流れで概ね昨年並みの流れ</p>
アルストロメリア	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は、最低温度10～13℃程度で加温管理が行われていることから、概ね順調に推移している。 ・4月の出荷量は、作付面積が前年よりやや減少していることから前年の95%程度と見込まれる。 ・燃油の高止まりに対応するために、従前の石油暖房機からの暖房から、ヒートポンプと石油暖房機を利用したハイブリッド暖房方式の施設がやや増加してきていることから、灰色かび病の発生は少なくなり、切花品質は良好である。 	<p>現状 上旬冷え込みの影響から予定より遅れていたが、中旬より各産地増加。彼岸需要から相場も上がり、高値は出にくいものの中値での取引となった。</p> <p>見通し</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷のピークは上中旬の見込み。 ・品質はほぼ平年並みの見込み。 	<p>大田花き 愛知、長野、山形は増加し中旬でピークを迎える見込み。各色潤沢入荷となる。 990,000 @55</p> <p>FAJ 長野、山形中心。入荷量増量見込み。まとまった入荷が予想される。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・気温が上がってくることから出荷量はピークへ向かう。 ・一部の施設で大雪による被害が出ており、出荷量は若干の減を見込んでいる。 	<p>東日本板橋花き 引き続き愛知、青森、福島中心の入荷。業務中心の動き。</p> <p>世田谷花き 例年通り、増量の見込み。業務主体の流れ。</p> <p>第一花き 業務需要中心の中、厳しい販売。</p>